

主なご質問とご回答

2024 年 6 月 7 日、2024 年度会社説明会にて頂いた主なご質問とご回答は以下の通りです。

Q1	今後の中期的な利益見通しは？また、政策金利の上昇影響を含めてアップサイドとダウンサイドのリスクについて想定している内容は？
A1	財務中間目標として 2027 年度に連結当期純利益 150 億円を掲げている。達成できれば過去最高水準となり、ROE も 5%を超える想定で設定した。 当行が基盤とする愛知県内の預貸シェアは 10%程度と成長する余地は十分ある。事業性取引先が多いという当行の強みを活かして役務取引等利益等を積み上げることで目標は十分達成できると考えている。 計画では政策金利の引き上げによる貸出金利への影響は加味してないためアップサイドとなる一方、急激な金利上昇により先行して預金コストが上昇すればダウンサイドとなる。

Q2	自己資本比率の適正水準は 12.5%とある。自己資本に含まれる有価証券の評価損益には増減があると思うが、考え方について教えてほしい。
A2	19 ページに記載の通り、その他包括利益累計額や資本調達手段を除いた自己資本比率は 8%程度。 その他包括利益累計額の多くが有価証券の評価益のため、増減は見通せない部分はあるが、政策投資株式の売却益等により低利回りで評価損を抱えた円貨債の入れ替えを行うなど継続的に対応をおこなっていく。

Q3	14 ページのアセットアロケーションについて、今後はストラクチャードファイナンスをより強化していくという認識でよいか。
A3	地域金融機関として中小企業向けの貸し出しや住宅ローンをしていくことが使命だと考えている。 地域で資金を還流した上で、余資についてはストラクチャードファイナンスや有価証券等へ振り分け、全体で収益のバランスをとっていく方針。

Q4	16 ページの海外ビジネスについて、2022 年 3 月期までは伸びているが、以降は横ばいとなっている要因は？
A4	2022 年 3 月期までの増加は中国でのスタンドバイ L/C 増加が主要因。 横這いとなっている一因は、海外に派遣していた行員をコロナ禍により全員引き揚げたため。半年程前から海外ネットワークの再構築に向けタイへの派遣を再開した。今後、地道に立て直していく方針。

以 上